

4. 腎細胞癌の腎静脈および下大静脈浸潤例の検討
(泌尿器科学) 間宮良美、栃本真人、伊藤貴章、大久保雄平、尾山博則、三木 誠

腎細胞癌は血行性転移を起こしやすく、その静脈浸潤は転移の予知因子ならびに予後決定因子として重要といわれている。そこで腎細胞癌静脈浸潤と遠隔転移および予後との関連につき検討した。対象は1986年5月から1997年7月までに当科で根治的腎摘除術を施行し病理組織学的検討がなされた199例。年齢は19~82歳(平均56.8歳)、性別は男142例・女57例。静脈浸潤があったのは59例(29.6%)で、内訳は顕微鏡的静脈浸潤24例、腎静脈内浸潤31例、下大静脈内浸潤4例であった。静脈浸潤(+)群の遠隔転移発生率は23.7%で、静脈浸潤(-)群の7.9%と比較し有意差が認められた。(p=0.002)しかし、5年生存率は静脈浸潤(+)群78.3%、静脈浸潤(-)群79.8%と差はなかった。今回の検討からは、静脈浸潤があっても手術的に摘除されていれば予後についてあまり差がないという結果であった。

5. 一過性脳虚血発作例の動脈病変：頸動脈超音波所見を中心として、
(老年病学) 小山哲夫、岩本俊彦、杉山 壮、木内章裕、大野大二、金谷潔史、高崎 優

一過性脳虚血発作(TIA)例に対し頸部超音波断層検査(US)を行い、頭部CTや脳血管撮影所見(AG)と比較した。対象は内頸動脈系TIAの22例で、これらにBモード超音波検査を用いて頸動脈病変の検索を行った。

その結果、TIA22例のうち91%に頭蓋外-頸動脈病変が検出され、中でも潰瘍性 mural plaqueや閉塞病変が虚血症状と深く関係していた。またこれらの病変は黒内障とも深く関連のあることが示された。USとAGとの比較では前者の方が頸動脈病変検出率が高かったが、一方で頸動脈病変が頭蓋内にある症例もあり、注意を要した。

以上より、TIA症例では頭蓋外の頸動脈に病変を有する例が多く、USは「病変検出率が高い事」、「無侵襲であること」、「リアルタイムで病変像を確認できること」などの利点から血管撮影施行前のTIAのスクリーニングとして有用であると考えられた。

6. 運動中の収縮期血圧は上肢と大動脈起始部で大きな差がある

(内科学第2) 高沢謙二、藤田雅巳、吉田マリ子、田中信大、小谷有理子、斎木徳祐、松岡 治、相川 大、田村 忍、伊吹山千晴

運動中の血圧について、上肢における測定では200mmHgあるいは250mmHgを越えることも多い。それでは心臓から最も近い大動脈起始部(心臓に対する直接的な負荷の指標)においてもこのような圧がかかっているのであろうか。近年橈骨動脈における圧波の測定によって大動脈起始部の血圧を精度良く推定し得ることが明らかになった(GTF:Generalized Transfer Function)。今回このGTFを用いて運動負荷試験中の収縮期血圧について検討した。結果:25例について検討したところ最大運動負荷付近で測定した上肢における収縮期最大血圧は平均 189 ± 16 mmHgであったが推定大動脈起始部収縮期最大血圧は 155 ± 13 mmHgであった。この上肢と大動脈起始部収縮期最大血圧の差は血圧が高くなるほど大きくなった。

結論:運動中に上肢で測定された収縮期血圧は大動脈起始部に比べて非常に高く、心臓に対する直接的な負荷としての血圧を考える時には的確な補正が必要である。

7. 高コレステロール血症を伴った閉塞性動脈硬化症に対するLDL-apheresis療法

(外科学第二、腎臓科*) 土田博光、市橋弘章、高江久仁、石丸 新、中尾俊之*

薬物療法後も高脂血症を示す閉塞性動脈硬化症(ASO)患者20名に週1回のLDL-apheresisを計10回行いその効果を検討した。血清総コレステロール値(mg/dl)は治療前 268 ± 72 、治療終了1週間後 $178 \pm 20^{**}$ 、LDLコレステロール値は前 198 ± 50 、後 $116 \pm 24^{**}$ であった。また赤血球膜透過能(μ l/sec.)の改善(前 72 ± 12 、後 $85 \pm 15^*$)、フィブリノーゲン(mg/dl)の低下(前 308 ± 72 、後 $240 \pm 50^*$)がみられた(mean \pm SD、*P<0.05、**P<0.01/paired t-test)。15例に歩行距離の延長、8例にABPIの0.1以上の改善をみた。治療前後で近赤外分光法併用トレッドミル運動負荷検査を行った5例中3例に虚血改善を認めた。治療前後で血管撮影上の狭窄改善を認めたものはなかった。LDL-apheresisは高脂血症を伴うASOの治療に有効と考えられる。高脂血症の改善に加え、赤血球変形能の改善、フィブリノーゲンの低下などによる末梢循環改善効果が下肢筋肉内酸素動態を改善したと思われる。